

【今ある「水」に感謝して】

私の通う中学校は、毎日学年ごとに朝の活動で清掃やかん水活動に取り組んでいます。太陽が照りつける夏の朝。元気の無かった花だんの花に水をやると、元気をとりもどしてきれいに咲いていました。小さなことですが水の力を感じる出来事でした。水がないと、花も野菜も育ちません。かわいがっているペットも、もちろん自分自身も水がなければ、みんな生きていくことはできないのです。他にも、部活中や体育の授業の後の一杯の水や、食事を作る時、食べる時、気持ちの良いシャワー。水の力を感じる場面は数多くあります。生活している中で、水はさまざまな形で活躍しているのです。しかし、私は「水の大切さ」をあまり考えずに過ごしていると思います。

もし水がなくなったら・・・と考えたことはありません。きつと、地球上に生きている生物は皆、大変なことになるでしょう。でも、水がなくなることなんてない。とどこかで思っている自分がいるのも確かです。新型コロナウイルスが世界中で流行し、沖縄県、そして私の暮らす宮古島でも身近なものとなりました。マスクやトイレットペーパーがお店からなくなるという初めての経験。当たり前にあると思っていたものが、ある日突然なくなることがあるのだと実感しました。同じように水がなくなったらどうでしょうか。蛇口をひねっても出てこない。多くの人が買い求め、どこに行っても品切れ。水は自然からの恵みです。こんなことにならないようにするためには、自然環境を大切にしなければなりません。

このように水の大切さを実感する一方で、最近水の怖さを感じることも増えました。県外では、大きな台風で川が氾濫したり、土砂災害が起こったりと、命が奪われてしまうこともあります。「異常気象」とも言われていますが、その原因は人間による自然破壊だと思います。数年前、島の地下水の水源保全区域への不法投棄が大きな問題になったことがあります。生活用水や農業用水のほとんどを地下水にたよっているのに、それが不法投棄により

沖縄県 宮古島市立下地中学校

一年

奥平 おくひら 琴羽 ことば

汚染されることは、確実に水不足につながります。利便さや自分の都合だけを求めるのではなく、自分の生活をふり返り、環境を守り、地下水を守らなければなりません。

先日、新聞で島の資源リサイクルセンターが、地下水に化学物質が流出するのを防ぐ肥料を生産していると知りました。このように水不足だけでなく、水質そのものを守り続けているとうとうとする取り組みをとてすばらしいと思いました。普段歩いている道の下の見えない部分に、地下水がめぐっていることを忘れずに、ポイ捨てをしない、優しい成分の洗剤や肥料を使用する。リサイクルをするといった私達の行動一つで、もっと安全で美しい水になるのです。

また、私達にできることは水を無駄遣いしないことだと思います。お風呂の残り湯は洗濯に使う。シャワーを使う時間を短くする。蛇口をきちんと閉める。雨水をかん水に再利用する。生活の中のほんの少しの節水とリサイクルで、水を守ることが出来ます。私たち一人一人の心がけが大切です。

今までは、水についてあまり考えたことはありませんでしたが、身近な水について調べてみて、毎朝の洗顔や手洗いの時、節水を意識するようになりました。私達がこれからもずっと、美しく安全な水を使っていくために。

しおれていた花だんの花が、元気をとりもどして美しく咲いたように、一杯の水が力をくれるように、私達の身の回りにはたくさん水の力があります。水は生きるために必要です。だからこそ今以上に感謝して生活していきたいです。そして、大切な水を守る一人として行動し、精一杯生きていこうと思います。